

焼津市自主運行バス等運営基準について

焼津市では、現在しずてつジャストライン（株）が運営する「路線バス」および焼津市が運営する「自主運行バス」の2つのバス路線が運行されており、これらの公共交通による人口カバー率は9割以上となっています。

バス路線は、市民の生活に必要な通勤・通学・通院・買い物などの移動を支える重要な社会基盤です。しかしながら、自家用車の普及や人口減少などにより、バス路線の利用者は年々減少傾向にあり、その維持に係る行政負担は年々増大しています。

このような中、本基準は、地域住民や交通事業者など関係者が連携し、持続可能な公共交通の運営を行っていくため、バス路線の確保維持、公平性の担保、行政負担の抑制等の課題に対し、既存路線の見直しや新規路線の設置に係る一定の基準を示したものです。

1. 焼津市の地域公共交通が、地域において最低限保障すべきサービス水準を明確化しました

最低保障のサービス水準は、利用者数の減少などにより、財政負担が増大した場合においても、効率的運行に向けた工夫を怠らないことを前提に、市内において最低限保障されるサービス水準です。

評価指標	内容
人口カバー率	○自主運行バス及び民間路線バスの停留所から半径300メートル圏内の人口を、直近の国勢調査人口で割った値。 ○現在のカバー率である9割程度とします。
医療施設等アクセス状況	○2箇所程度の主要な医療施設及び商業施設の利用が可能となるような路線及びダイヤとします。 (連携計画の公共交通ネットワーク運営方針より)

2. 自主運行バスについて、「利用促進策」もしくは「コスト削減策」等を検討・実行すべき基準を明確化しました（自主運行バス全体の評価）

視点	評価指標	内容
有効性	年間利用者数	○自主運行バスの年間利用者数が市の人口以上であることを維持しているか。
	市民意識	○市民意識調査の「市内のバスを便利だと感じる方の割合」を使用 ○過去3年間の平均値20%程度を基準とします。
効率性	一人一回あたり輸送コスト	○自主運行バス「運行経費」から「運賃等収入」を差し引いた額を、自主運行バスの年間利用者数で割った値。 ○タクシーの初乗り料金690円程度を基準とします。

3. 自主運行バスについて、「利用促進策」もしくは「コスト削減策」等を検討・実行すべき「路線別の基準」を明確化しました

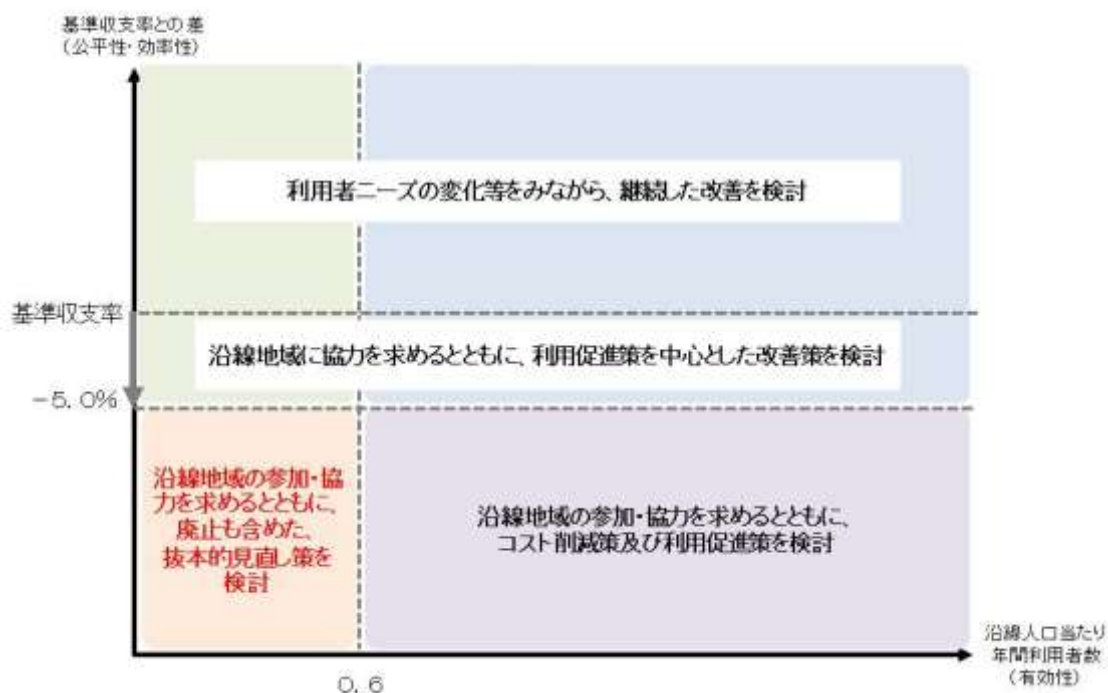
(横軸)「沿線人口当たり年間利用者数」

→ 年間の利用者数が、沿線人口の60%以下となった場合には、沿線地域の参加・協力を求めるとともに利用促進策等を検討し、実行に移します。

(縦軸)「基準収支率との差」

→ 「実際の収支率」が「達成すべき収支率(基準収支率)」よりも5%以上低い場合には、沿線地域の参加・協力を求めるとともに利用促進策、コスト削減策等を検討し、実行に移します。

路線別の評価基準の考え方



4. 人口密度の低い「大井川地区」で、収支率が過小に評価されないよう、人口密度の高低を考慮した「基準収支率」を設定しました

「焼津地区」と比較して「大井川地区」は人口密度が低いことから、見直しの基準に同一の収支率を用いることは適切ではないと考えられます。

したがって、路線ごとの「達成すべき収支率」には、人口密度の高低を考慮した「基準収支率」を設定しました。

(H25 基準収支率: 焼津循環線 30.6%、大井川焼津線 14.1%、大井川西部循環線 11.7%)

5. 運営基準に基づいた評価の手続きについて、具体的なスケジュールを明確化しました

運営基準による評価の結果に基づいた、継続した改善策の検討・実行を毎年定期的に行うため、具体的な年間スケジュールを定めました。